

だいじょうび?

大腿骨頸部骨折

近年の高齢化と、コロナ禍による外出自粛に伴う運動不足のために、骨粗鬆症の悪化や足腰が弱くなり転倒しやすくなった結果、骨粗鬆症由来の骨折が増加しています。

なかでも太ももの骨（大腿骨）の付け根の骨折である大腿骨頸部骨折はその後の生活の質や生命予後にも大きく影響するために大きな問題になっています。

大腿骨頸部骨折は、骨折部のずれ（転位）が少なく骨折部が比較的安定しているタイプと、転位が大きく骨折部が不安定なタイプに分類されます。

治療法はどちらのタイプも手術療法が中心で、骨折部のずれ（転位）が少なく骨折部が比較的安定している場合にはピンやスクリューで骨折部を固定する骨接合術が、転位が大きく骨折部が不安定な場合には大腿骨頭を人工のものに置き換える人工骨頭置換術が選択されることが一般的です。

姫路市医師会
スポーツ医学
委員会

三輪雅彦



このような手術の場合概ね治療成績は良好ですが、骨接合術の場合、術後の骨折部自体の合併症として、骨折部の骨癒合不全（骨折部の骨の癒合が不十分）、大腿骨頭壊死（大腿骨の先端にある大腿骨頭の一部分が壊死する）及びそれに伴う遅発性の骨頭圧壊（壊死により弱くなった大腿骨頭が後に圧壊する）の発生が考えられます。人工骨頭置換術の場合、術後の合併症として、稀ですが人工骨頭の脱臼や骨との間に生じるゆるみの発生などが考えられます。更に骨折や手術による安静に伴う足腰の筋力低下や、肺炎、尿路感染、床ずれ等の発生も懸念されます。

そのため、このような骨粗鬆症による骨折の発生を予防するために、適度な運動により足腰を鍛え転倒を防止するとともに、適切な骨粗鬆症の診断、治療を行うことが大切です。